

令和7年3月25日  
世田谷区立玉堤小学校  
校長 伊藤 修久

## 令和6年度 学校改善の結果

### 学校評価の結果をふまえて設定した課題

#### 重点目標1：豊かな伝え合いを通して、深く考える子どもの育成（知）

##### 〔数値目標〕

- 自分の思ったことや考えたことを文章や言葉で表現し、タブレット端末等を活用し、伝え合う場を多様に設定することにより「自分の思いや考えをすすんで表現する」子どもを90%以上にする。

##### 〔アンケート結果〕

- 「話し合い、発表し合ったりする機会がある」児童99%以上「課題について、自分で考えたり友達と考えたりする授業」が95%以上と高い数値を示した。「思ったことや考えたことを文章や言葉で伝えることができる」項目は、89%だった。

##### ②方策

- ① 生活科・総合的な学習の時間において、E S Dの視点により、三学期末に一年間を通して学んだことの研究発表会を行う。体験的な活動を通して、課題について自分で考えたり、協働的な学習において友達と考えたりすることにより自分の考えをもつことができる。また、高学年では、タブレットのプレゼンテーションソフトを活用して自分の考えを表現することができようとする。
- ② 各教科において、ペア学習や小グループ学習での話し合い活動を可能な限り授業に取り入れる。その際、タブレットを活用し、ロイロノートで友達の意見を共有することができ、自分の考えを深めることができますようにする。
- ③ 発言や発表だけでなく、ノートやワークシートへ自分の考えたことを文章や言葉で表現することにより自分の考えを振り返ることができるようとする。

#### 重点目標2：自己有用感を高め、思いやりのある子どもの育成（徳）

##### 〔数値目標〕

- 「思いやりの気持ちをもって行動している」子どもを90%以上にする。  
○「自分からあいさつの声をかけることができる」子どもを90%以上にする。  
○様々な人と関わることを通して、人の気持ちを考えたり、人のために何かをしたりする経験を積み重ねることにより、「相手の気持ちを考えて行動している」子どもを90%以上にする。

##### 〔アンケート結果〕

- 「相手の気持ちを考えて行動している」が92%、「心を込めてありがとうと言っている」が95%、「自分からのあいさつの声をかける」が94%、「思いやりの気持ちをもって行動している」が79%であった。

##### ②方策

- ① 本校児童の「よさ」の価値づけを適切に行う。学校・家庭・地域の三者が同じ方向を向き子どもたちを認め励まし、自分の言動に自信がもてるような関わり方をしていく。
- ② 挨拶運動（異学年交流・なかよし班、翠と渓の学び舎やPTA活動）や日々の教育活動を通して、気持ちの良い挨拶を心掛けさせていく。
- ③ 特別活動や生活科・総合的な学習の時間で使用したキャリアパスポートを活用した家庭との交流を継続する。

### **重点目標3：健康な体づくりや体力の向上にすすんで取り組む子どもの育成（体）**

#### [数値目標]

○ 「健康な生活をすることを心がけている」（食事や睡眠・早寝早起き）「めあてをもって体育や運動に取り組んでいる」（すすんで運動・体育や外遊び）と回答する子どもを85%以上にする。

#### [アンケート結果]

□ 「感染予防の意識をもって生活している」が74%、「食事・睡眠に気を付けている」が66%、「すすんで運動するように心がけている」が72%である。保護者は「子どもは体力向上や健康な生活に取り組んでいる」が79%、「子どもは、運動や遊びで体を動かしている」が84%である。

#### ◎方策

- ① 晴れた日は、外遊びを奨励し、校庭で遊びを工夫し、楽しみながら体力向上につなげる。
- ② 感染症の対策を取りながら、持久走や短縄、長縄については、体力向上週間、月間を設け、カードを配布することにより、継続して体力向上に努めさせた。長縄については、年間2回行い、1回目と2回目を比較させ、意欲を高めさせた。来年度も持久走大会を多摩川の河川敷で行う。
- ③ 体育の授業での取り組みをカード、タブレット等で記録化し、振り返りをさせることで児童自らの変容に気付かせた。

#### 令和6年度全体を通しての課題

##### 「子ども達の笑顔があふれる学校」～持続可能な社会の創り手を育てる～

ESD（持続可能な社会の創り手を育む教育）の観点を取り入れ、持続可能な社会の創り手を育てるために、教育課程全体で自分の考えを表現できる児童を育成してきた。

教員が、子どもたちの興味・関心に応じた板書やプリント資料の工夫、タブレット端末を活用した教材づくりの工夫をすることによって、子どもたちの意欲は高まり、学習理解も高まってきている。

また、学校・PTA・地域のご協力のもと、運動会・玉堤フェスタ・学芸会などが実施できたことが、子どもたちにとって励みになった。学校行事の実施は、子どもたちの人間関係や責任感、行動力を成長させる良い機会となった。

令和6年度の、学校評価（保護者）の傾向としては、健康な体づくりや体力の向上にすすんで取り組む子どもの育成において、健康な体づくりや体力向上においてが、まだ、十分ではなかった。健康な体づくりや体力向上については、来年度さらに考えていただきたい。

また、学校経営方針を分かりやすく発信すること、翠と渓の学び舎での活動の発信も不十分であった。今後も保護者や地域への発信を継続して行っていきたい。